

一宮市
博物館
だより

No.33 2003.10



あざいまんこんこう
「浅井万金膏」看板(大正頃)
「浅井万金膏」は1705年(宝永2)創業とされる薬師郡東浅井村(現一宮市)の森林平家が製造販売していた膏薬。その版路は尾張全域のほか、三河・伊勢・美濃・信濃などまで及んでいた。

MOA美術館名品展

黄金の茶室とわび茶の世界

十月十日(金)～十一月九日(日)

この展覧会は、MOA美術館(熱海市)のご協力により、茶道文化に焦点を当て、同美術館所蔵の名品のうち四十八件を選び、紹介するものですが、茶道具、関係の名品とともに、豊臣秀吉ゆかりの「黄金の茶室」(復元)の展示が大きな話題となっています。

織田信長の後を継いで天下人となった豊臣秀吉は、関白に任ぜられた翌年の天正十四年(一五八六)正月十六日、大坂城から「黄金の茶室」を運び、禁中小御所

においてこれを組立て、正親町天皇に自ら茶を献じました。その後、この茶室は京都の北野大茶湯で広く一般民衆に公開され、文禄二年(一五九三)九州名護屋城において、明使節との和議会見の際に用いた記録を最後に歴史上から消えていきます。おそらく大坂夏の陣の際に失われたと考えられています。それらの様々な機会にこれを実見した公家、大名、茶人など多くの人達がそれぞれに讃嘆の言葉をもって日記や茶会記などに書き留めており、その姿を想像することが出来ます。

文献によれば、障子は赤い紋の入った紗織、畳は狸々緋で縁は金襴、そして茶の湯道具も、茶筌・茶巾のほかは台子・風炉・釜・水指・杓立・建水・蓋置などすべてが黄金づくりという華麗なものでした。今回展示する「黄金の茶室」は、MOA美術館が中心となって、文献史料をひろく渉猟し、あたら限りの正確な再現につとめ、武将と茶人と宮廷人との文化的接触によって華開いた桃山文化のひとつの象徴としての姿を追い、その美術史上の真の意義を探り求めようとして復元制作したものです。

桃山時代は、絢爛豪華な建築物、



金碧障屏画や金銀時絵の調度などに象徴される黄金文化隆盛の時代でした。一方、信長・秀吉の元で茶頭を務めた千利休は、それとは対極にある侘び茶を完成させました。秀吉はこれをもこよなく愛し、大坂城内の一面に草庵茶室を作り自らも侘び茶に傾倒しました。「黄金の茶室」は、黄金と侘びという対極の世界を等しく知る秀吉によってはじめて実現し得たものといえるでしょう。

■そのほかの主な展示品

野々村仁清「色絵金銀菱文重茶碗」(重要文化財)、伝牧谿「呷々鳥図」(唐物竈目肩衝茶入 大名物)、「元庵普寧墨跡 尺牘」(重要文化財)、「後水尾天皇宸翰 和歌懐紙」(重要美術品)、「井戸茶碗 銘常盤」(練志野茶碗 銘田子浦)、「千利休」竹茶杓 共筒)、「尾形光琳」朱達磨図、「尾形乾山」色絵吉野山文透鉢、「狩野探幽」徳川家康像、「宮本武蔵」布袋図)ほか

Information

会 期 / 10月10日(金)～11月9日(日)
 会期中の休館日 / 10月14日(火)・20日(月)・27日(月)、11月4日(火)
 開 館 時 間 / 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 観 覧 料 / 一般600円(400円)、高・大学生400円(300円)、小・中学生200円(100円)
 ()内は前売りおよび20名以上の団体料金。
 ※学校休業日の土曜日は小・中学生無料。一宮市発行の「シルバー優待証明カード」あるいは「老人医療受給者証」持参の方は無料。
 観覧券の前売所 / チケットぴあ、びあスポット、ファミリーマート、サンクス、セブンイレブン、一宮市生涯学習課、一宮市博物館
 主 催 / 一宮市博物館、中日新聞社
 協 力 / MOA美術館、エム・オー・エー美術・文化財団愛知支部
 後 援 / 愛知県教育委員会
 記 念 行 事 / 会期中の日曜日(10月12日・19日・26日、11月2日・9日)
 午前10時～午後3時に博物館和室で呈茶をします。(500円・前売400円)



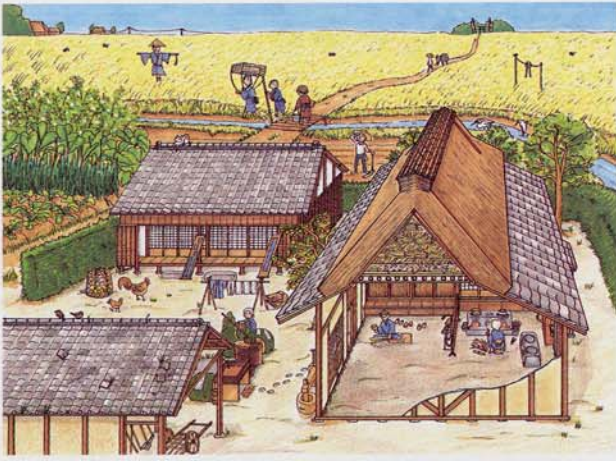
企画展

くらしの道具

— 今と昔 —

平成十六年一月十日(土)～
平成十六年二月二十二日(日)

平成三年度から開催してきたこの展覧会は、歴史を学び始める小学校三年生を主な対象とした展示でした。今年度からは、このカリキュラムが小学校四年生を対象とすることによって、展覧会の主な対象も小学校四年生となります。さらに、くらしの道具の今と昔を比較するだけではなく、自然環境による生活の違いについても考えてみたいと思っています。



▲平成13年度の展覧会から



例えば、ザルやカゴの素材として一宮周辺ではマダケやハチクが使われますが、竹が育ちにくい地域ではどのような素材が使われるのでしょうか。また、農具の形や種類、食べ物などについても比較をしながら展示します。

一宮市博物館
民俗芸能公演

平成十六年三月二十二日(日)

一宮市博物館民俗芸能公演では、市内に残る民俗芸能を広く市民に知っていただくために、毎年一宮市指定無形文化財「島文楽」(昭和三十六年三月二十七日指定)と「宮後住吉踊」(平成十二年六月二十二日指定)の公演を行います。島文楽はこの他にも市内の小中学校で公演することがあり、左下写真は平成十五年六月十五日に大和西小学校での公演風景です。外題は「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」。親子の涙の物語を、少しぎこちない表情で見ている小学生でした。



博物館講座

尾張平野を語る8
環境と人と生き物

— 山・平野・川・海をつなぐ —

平成十六年一月二十五日(日)
平成十六年二月一日(日)
平成十六年二月八日(日)の三回

今回で八回目となるこの講座では、銅鐸をめぐるシンポジウムをはじめ、歴史をテーマとした講演会を中心に実施してきました。そして、今回は伊勢湾・濃尾平野、特に市域の北と西を取り囲む木曾川に暮らす生物や人をテーマに、三回の講演会を行います。



▲木曾川の筏(模型)



◆◆◆博物館ニュース◆◆◆

企画展 四月二十六日(土)～五月二十五日(日)

街でみつけた近代 ～一宮の近代化遺産～ (愛知県近代化遺産(建造物等)総合調査)

愛知県では平成14年度から三カ年計画で「愛知県近代化遺産(建造物等)総合調査」を実施しています。「近代化遺産」とは、主として明治時代以後の技術によって造られた産業・交通・土木に関する構築物を指し、「近代」という時代を象徴する文化財とも言えましょう。

当館では県に協力し、市内に散在する建造物や土木構築物等について、各所有者様の格別のご協力を得ながら第一次調査を行いました。まだ街の一隅では「近代」を発見できること、しかしそれは失われつつあることが改めて分かりました。

今春、当館での調査報告というべき企画展「街でみつけた近代」を開催しましたが、緩やかに進行している近代化遺産の危機的状況を市民の皆様にご認識いただければとの思いからでした。

開催期間中の入館者は1,776名でした。今後とも調査を重ね広い意味での文化財保護を図っていければと思います。



▲「街でみつけた近代」展



▲市庁舎貴賓室の再現

■市内の近代化遺産(企画展解説書未掲載物件)



▲扉まわりの装飾



旧輸出織物検査所 (麦酒館)

所在地 一宮市大和町馬引
所有者 三星毛糸(株)
施工年 昭和16年
構造等 木造



旧村瀬銀行萩原支店 (木全乳母車店)

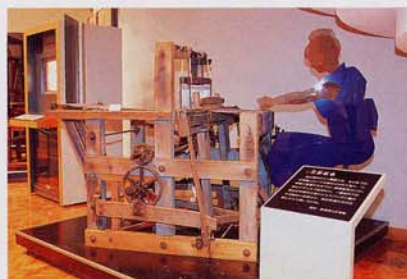
所在地 一宮市萩原町萩原
所有者 個人
施工年 大正8年
構造等 土蔵造

昭和26年刊行の『一宮市警紹介』によれば、昭和16年に輸出織物検査所として建設され、20年には一宮大空襲で焼失した一宮警察署の仮庁舎として数年使用されたとのこと。しかしながら輸出織物検査所の実態は不明。

昭和恐慌による銀行倒産後は、肥屋の倉庫、種屋の店舗兼住宅等として使用されるが、現在は乳母車店の店舗となる。二階建て。一階の大部分を占める営業室・客溜空間は吹抜となり、二階には回廊が巡る。



▲豊田式力織機(昭和23年製造)



▲足踏織機(戦後の製造か)

※当館常設展示資料



▲回廊

(岩井 章真)

企画展 七月二日(火)～八月三十日(日)
一宮の考古学のあゆみ・八〇年

大正十五年(一九二六)に、郷土史家森徳一郎によって馬見塚遺跡で土器棺が発見され、その後全国で紹介されて以来の、一宮市における考古学のあゆみを出土遺物とともに振り返りました。
 一宮市の考古学の歩みを「〇期 お宝発見」「Ⅰ期 森徳一郎氏と愛知県史蹟名勝天然記念物調査会」「Ⅱ期 市史編纂事業と一宮考古学会」「Ⅲ期 博物館の開館と大規模発掘の時代」の4時期に区分し、それぞれの時期を代表する実物資料や調査記録資料を展示しました。また、浅井町の葉栗野古墳出土の金銅製雲珠(徳川美術館蔵)、萩原町出土の弥生土器・赤彩長頸壺(名



▲講演会



▲展示説明会



▲展示風景

古屋市博物館蔵)、葉栗地区出土の須恵器・皮袋形提瓶(京都大学総合博物館蔵)も里帰りしました。
 七月二十七日(日)に開催した講演会には、約九〇名の方の参加があり、前一宮市博物館長で東海学園大学人文学部教授岩野見司先生の「考古学四〇年」一宮市と

ともに」と題した講演に耳を傾けました。昭和三十三年以降、市史編纂事業と博物館建設に尽力された岩野先生の熱い語り口の中に、一宮の考古学に対する深い情熱を感じた方も多かったことでしょう。

今回の展示が、みなさんのすぐ身近にある遺跡や出土遺物を通して一宮市の歴史を考えること、そしてこれからの一宮市を考える契機となればと思います。

企画展 八月二十日(水)～三十日(日)
一宮市学童写生大会作品展

一宮市内の幼稚園・保育園児、小・中学生の絵画作品一四三点を展示しました。展示空間は回廊・ギャラリーを使用しました。夏休み中で、また、会期も長く取れた関係もあり、保護者の方たちにも好評のうちに終了しました。



企画展 九月十日(水)～二十三日(祝)
一宮美術作家協会 新展

四二人の協会員による「最新の発想・イメージの試作」による作品約六〇点を紹介しました。講座室・ラウンジ・展示室四・ギャラリーを使って展示しました。館外部の借景を取り入れた和やかなものとなりました。



企画展 九月二日(火)～七日(日)
一宮写真協会 七人展

協会員七人による「熱い思いを込めた」作品四〇点を展示しました。来館者の方々は、海外に題材を得るなどした作品類を見て「作品に込めたメッセージ」がよく伝わると、皆さん感銘を受けて帰られました。



平成15年度 子どものための尾張歴史講座

～ 体験! 考古学 ～

博物館では、学校という場では得られない歴史観や地域文化に対する子どもたちの関心や興味を引き出し、画一化しつつある社会の中で、ふるさとを愛し地域性の比較ができる思考力を持った子どもたちを育てようと毎年夏休みを中心に小学校高学年～中学生を対象にした講座を行っています。

今年度は先年に引き続き、「体験! 考古学」と題し、8月の毎週日曜日5回にわたって講座を開催しました。

8月3日(日)

入門! 考古学

時間/午後1時30分～4時
 講師/一宮市博物館学芸員 土本典生
 場所/一宮市博物館講座室
 参加者/15人



8月10日(日)

石器を作る

時間/午前10時～午後3時
 講師/名古屋市見晴台考古資料館 学芸員 水野裕之氏
 場所/一宮市博物館講座室
 参加者/14人(1人欠席)



8月17日(日)

やきものの歴史をたどる

時間/午前9時～午後5時
 講師/愛知県陶磁資料館 学芸部長 浅田員由氏
 場所/愛知県陶磁資料館
 参加者/保護者と児童・生徒 12組 24人



8月24日(日)

シカの角で道具を作る

時間/午前10時～午後3時
 講師/愛知県教育委員会 生涯学習課文化財保護室 原田 幹氏
 場所/一宮市博物館講座室
 参加者/14人



8月31日(日)

布を編む・布を織る

時間/午前10時～午後4時
 講師/一宮市博物館 学芸員 久保禎子
 場所/一宮市博物館講座室
 参加者/12人(3人欠席)



新収蔵資料紹介

十二月月花鳥図

作者 渡辺清わたなべ せい（一七七八〜一八六一）

制作年 江戸後期（十九世紀）

員数 十二幅

技法・材質 紙本墨画淡彩

法量 本紙縦一二七・三×横四七・四cm

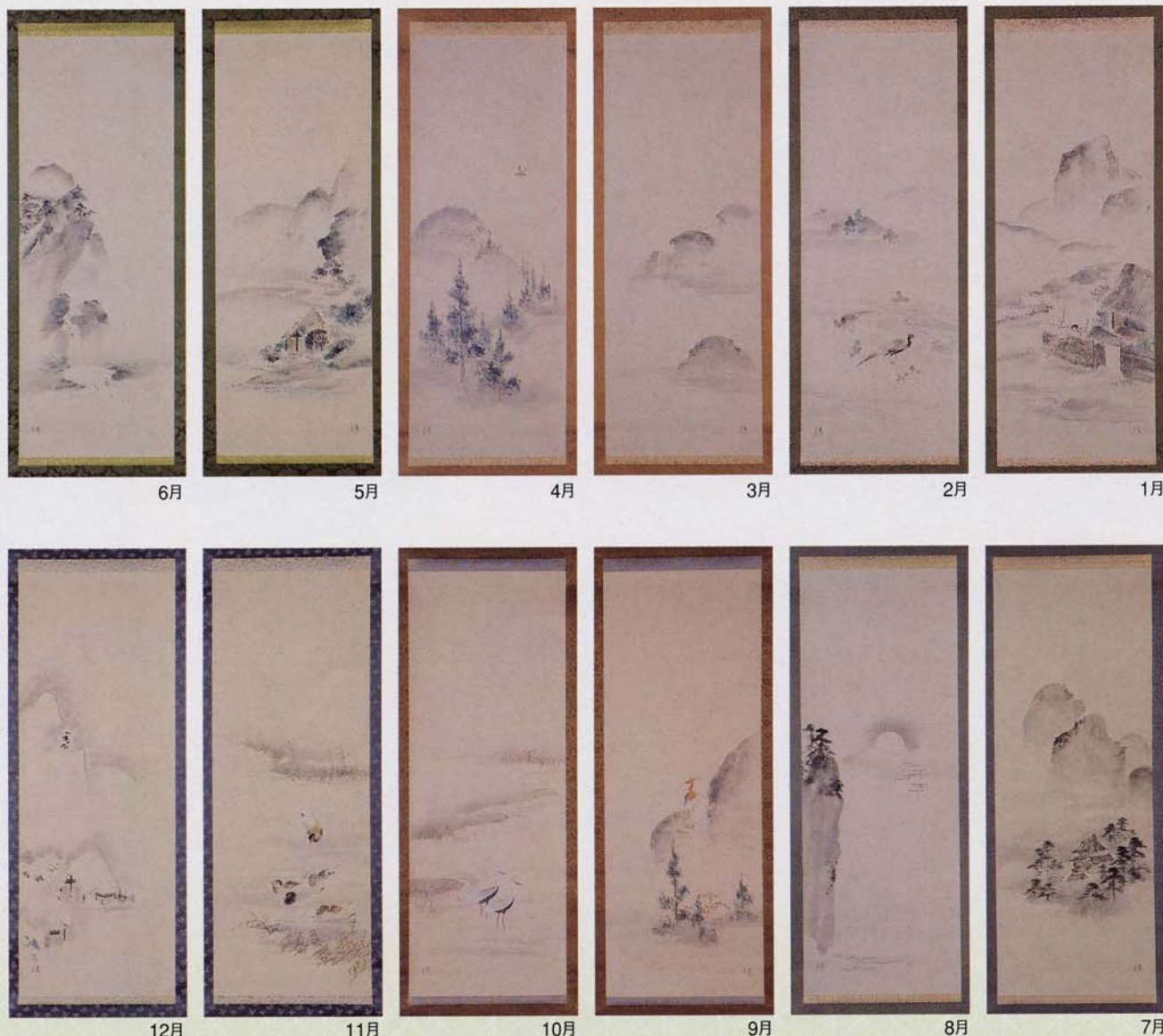
総丈縦一九六・〇×横六〇・六cm

落款 全作品に「清」朱文方印

平成十三年度購入

渡辺清は、名古屋本町八丁目に縫箔を業とする利平の子として生まれる。通称大助、別号周溪。はじめ吉川英信・一溪について狩野派の画法を受け、のち京都に出て田中訥言・土佐光貞に大和絵を学ぶが、数年で帰名し長者町一丁目に居構えて画を業とした。繊細秀麗な筆致と彩色の妙、および卓越した意匠で世に知られ、その穏健な画風は大いに人気を博して名古屋画壇の発達に尽くした。署名をしないで「清」印のみを捺すことで著名。一説に、京都の清水観音を詣でた帰路に本朝古印体の「清」印を入手し、以後それを愛用して名も清と改めたと伝えられる。田中訥言・浮田一蕙いけいらとともに復古大和絵画家の一人とされる。その作品は、「十二月行事図絵巻」・「職人尽図屏風」（名古屋博物館）・「舞楽図」・「花鳥図屏風」（熱田神宮）などが知られている。本品は、四季十二ヶ月の花鳥風月を描いた力作である。柔らかな色彩で品良くまとめ、旧来の大和絵に四条派系の画風を加味した独自の世界が見られる。

本作品の画題は、正月―梅、二月―雉、三月―吉野桜、四月―ホトトギス、五月―水車、六月―赤目四十八滝、七月―犬山城、八月―雁、九月―鹿と紅葉、十月―双鶴、十一月―鴛鴦、十二月―雪中茅屋。六曲一双屏風を昭和六十年に掛幅として仕立て直したという。その時、表装の布は六種類の異なる色柄を用い、一大幅で床の間に飾れるように工夫された。なお、「清」印の場所は、正月は右下、二月は左下、三月は右下という法則で捺印されている。（毛受英彦）



平成15年度下半期催し物のご案内

10月10日(金)から11月9日(日)

秋季特別展 MOA美術館名品展 —黄金の茶室とわび茶の世界—
於:特別展示室、ラウンジ、展示室4など

10月30日(木)

第39回市民文化財めぐり 於:真清田神社・木曾川堤・浅井古墳群など

11月19日(水)から12月3日(水)

企画展 一宮市美術部門展覧会(仮称) 於:特別展示室など(予定)

12月6日(土)から12月21日(日)

企画展 2003一宮市現代作家美術秀選展
於:特別展示室、講座室、ラウンジなど

1月10日(土)から2月22日(日)

企画展 暮らしの道具 ~今と昔~ 於:特別展示室、ラウンジ

1月25日(日)、2月1日(日)、2月8日(日)

博物館講座 尾張平野を語る8—環境と人と生き物
~山・平野・川・海をつなぐ~ 於:講座室

2月28日(土)、2月29日(日)、3月14日(日)

博物館講座 はにわをつくろう 於:講座室、妙興寺境内

2月29日(日)から3月14日(日)

作品展 手つむぎ・染め・織り展 於:特別展示室

3月21日(日)

民俗芸能公演 島文楽・宮後住吉踊 於:講座室、妙興寺公民館

一宮市
博物館
だより

第33号

発行日 平成15年10月3日
編集・発行 一宮市博物館
制作 サンメッセ株式会社

利用案内

名鉄名古屋本線「妙興寺」駅下車徒歩7分
〒491-0922 愛知県一宮市大和町妙興寺2390
TEL 0586-46-3215 FAX 0586-46-3216

【観覧料】(常設展・聴講料含む・特別展の場合は別途定める。)

一般=200円(160円) 高・大生=100円(80円)

小中生=50円(40円) * ()は20人以上の団体料金

【休館日】毎週月曜日、休日の翌日、年末年始(12月28日~1月4日)

【開館時間】午前9時30分~午後5時(入館は4時30分まで)

※一宮市内の小・中学生は無料。(特別展期間中はのぞく。)

※土曜日は小・中学生無料。(長期学校休業日および休日はのぞく。)

※一宮市発行の「シルバー優待証明書」あるいは「老人医療受給者証」持参の方は無料。

【HP】<http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/division/museum/index.html>

